

## イタリア 果実輸出に開かれたアジアの新市場

EUROFRUIT 2023年11月8日

イタリアの洋ナシ、キウイフルーツ、リンゴの輸出業者らは、最近の一連の現地視察を受けて、中国、韓国、台湾、タイ向けで大きく勢いづいた。貿易と市場の専門機関であるCSOイタリアの関係者らによると、アジアの市場はイタリアからの洋ナシ、リンゴ、キウイフルーツの輸出に対して次第に開かれてきている。

同団体は最近、イタリア産果実のこれらの国への輸出解禁を促進することを目的とした現地視察をエミリア・ロマーニャ州で4回開催した。それらは、中国向けの洋ナシ、韓国向けのキウイフルーツ、台湾向けのリンゴ及びタイ向けの洋ナシに関するものであった。

エミリア・ロマーニャ州、CSOイタリア、及びイタリアの輸出業者数社が協力し、6年間待った末、中国への洋ナシの輸出を許可する議定書が6月26日に調印された。病気の蔓延、干ばつ、さらに最近の洪水により過去数年間で規模が大幅に縮小してきたイタリアの洋ナシ部門にとって、この合意は大きな突破口となる。

交渉は2017年に始まったが、コロナ禍によって延期され、2021年末にようやく再開された。技術的なハードルを次々とクリアした後、2022年9月に1回目のいわゆるハイブリッド検査(リアルとバーチャルの組み合わせによる)が行われた。中国政府の担当官は、イタリアの洋ナシ生産の70%が集中するエミリア・ロマーニャ州の企業を訪問した。

現在、特定の条件が正しく実施されていることを確認するために9月に中国の検査官が実施した2回目のハイブリッド検査を受けたところで、イタリアの輸出業者らは、2024/25年度出荷シーズンの開始に間に合うように洋ナシの中国向け出荷の許可を得られる見込みである。

CSOイタリアの国際関係の責任者であるシモーナ・ルッピ氏は、「北京のイタリア大使館が長年にわたり取り組んでくれたすべてのことに、特別に感謝しなければならない。彼らはイタリア農業食料森林省(MASAF)とともに、あらゆる段階で我々をサポートしてくれた。また、2回の視察において、在ローマ中国大使館の2人の担当官は、リモートで接続しているすべての中国人専門家がすべてのことを容易に理解できるように支援してくれた」と述べた。

中国との貿易関係強化に向けたルッピ氏の取り組みを支援したキアラ・ビニャーミ氏は、イタリアの州レベルと国レベルの当局者が示したチームワークが、今回の前進の「基礎」であったことに同意し、「これはまた、洋ナシ業界が置かれている厳しい状況にもかかわらず、優れたプロ意識を持って取り組んだ関係企業自身の貢献にもよるものである」と述べた。

交渉された議定書は、すでにイタリア産キウイフルーツの中国への輸送時間を半減するために使用されていると見られる従来型のリーファー輸送機器を使用する可能性など、出荷に関して様々なオプションを規定している。ルッピ氏は、「次はリンゴに取り組む。交渉が早期にまとまることを願っている」と付け加えた。

これとは別に9月中旬には、イタリア、ベルギー、オランダ、ポルトガルを代表して欧州委員会が調整した広範な視察の一環として、イタリア産の洋ナシにタイ市場を開放するためタイの検査官が訪れた。検査官らは、エミリア・ロマーニャ州で見たものに満足したと伝えられており、輸出開始を可能にする最終的な輸出条件は2024年初頭に公表される予定である。

イタリアのキウイフルーツビジネスにも、韓国で新たなチャンスが生まれた。韓国は10月に、エミリア・ロマーニャ州、ピエモンテ州及びヴェネト州の果樹園と梱包施設を確認するために検査官を派遣した。そのわずか数日後には、すぐに出荷を始めるための正式な許可が下りた。

また、台湾は10月中旬にピエモンテ州、ロンバルディア州及びヴェネト州で果樹園と梱包施設の正式な現地視察を行ったところであり、まもなくイタリア産リンゴに門戸を開くものと見られる。

執筆者: マイク・ノールズ